

茂木敏充衆議院議員との対談 第3回

全3回

衆議院議員 茂木敏充先生

開倫塾塾長 林明夫

林明夫：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」を聞いていただき有難うございます。

今月は、茂木敏充衆議院議員をゲストにお招きして、3回シリーズでお話をお聞かせいただいております。今日はその最終回です。茂木先生、今日もよろしくお願い致します。

茂木敏充先生：よろしくお願い致します。ところで、明日から3月ですが、この「開倫塾の時間」も3月で22年目を迎えるそうですね。本当におめでとうございます。

林：有難うございます。茂木先生には、20年くらい前から毎年おいでいただき、本当に感謝申し上げます。

茂木：実にいろいろなテーマで、教育論や社会保障制度、さらに外交問題など林さんといろいろな議論をさせていただき、本当に懐かしく思っております。

林：茂木先生から20年近くにわたって毎年何回かこのような形でお話を聞かせていただくのは、私にとっても非常に名誉で、有難いことです。茂木先生のお話はとても勉強になりますので、皆さんも一緒にお話をお聞き下さい。

今回の一連の金融危機の中で、日本とアメリカの関係をどのように考えたらよいのか、特にオバマ政権の外交と日米関係について、今日はお話をお伺いしたいと思います。

前は日米の景気対策、そして国内政治についてお話をお伺いしましたが、今回はオバマ政権の外交政策についてお伺いしたいと思います。その特色はどのようなものとお考えでしょうか。

茂木：それまでのブッシュ政権は hard power(ハード・パワー)、どちらかと言いますと軍事面を重視したのに対して、オバマ政権の外交政策は一言で言うと smart power(スマート・パワー)という言葉を使います。総合力で勝負をする、つまり軍事ももちろんありますが、経済や文化など、ソフト面を重要視するのです。

もう1つは、ブッシュ政権の頃は unilateral(ユニラテラル)、つまり、日本語に直すと一極主義、米国が中心になっいろいろなことを動かしている、こういう言葉が使われました。しかし、オバマ政権では multilateral(マルチラテラル)、つまり、日米間はもちろん、ヨーロッパ、更には中国をはじめとする新興国、それから国連や国際機関等と話し合いをし、協調しながらやっっていこうという方向にシフトしています。ユニラテラル(一極主義)からマルチラテラル(多国間協力)にシフトしている、このことが大きな特徴だと思っています。

林：今、smart power(スマート・パワー)という言葉をお聞きしました。これは茂木先生のご出身のハーバード大学のケネディスクールのジョセフ・ナイ学院長がご提唱されました。今度は日本大使にご就任されるかもしれないということですが、よかったですよね。

茂木：今、そういう予定で進んでいます。私を含めハーバード大学のケネディスクール出身の国会議員が自民党の中にも7人くらいおり、私がその「ケネディスクールの会」の会長をやっております。みんな、ナイ学院長が日本大使に就任することを喜んでおります。

林：ところで、テロとの戦いでは、インド洋での給油など日本への協力が非常に求められましたが、オバマ政権でも同様の要求があるのでしょうか。

茂木：テロとの戦いについては、オバマ政権でもきちんと継続をしていくということです。ブッシュ政権は、名指しで北朝鮮とイラク、イランを「悪の枢軸」と言いました。オバマ政権は、それよりも国境を越えて広がるテロの温床に対処していくということです。どちらかと言うと重点がアフガニスタンとかパキスタンのほうに移っていくのではないかと思います。同時に、先ほど申し上げましたように hard power(ハード・パワー、軍事)から smart power(スマート・パワー、総合力)へとということになってくると、それぞれの国が自分の得意分野で貢献をしていく、また、アメリカとの間でも、ヨーロッパ諸国との間でも役割分担をしていくということが大切だと思っております。

例えばアフガニスタンについてお話すると、日本の国内ではあまり知られていないのですが、日本は相当な復興支援を行っておりまして、その成果が上がっているのです。いくつか挙げてみます。

まず、治安の改善という問題で言いますと、アフガニスタンには警察官が7万人いるのですが、日本は平成20年度の二次補正予算で約140億円を支出して、これらの警察官の給与の半年分を持ってあげています。治安を守るうえで警察官の果たす役割は相当大きいですから、非常に感謝されております。

それから保険や医療の分野で言いますと、アフガニスタンの人口は約3千万人くらいですが、人口以上の延べ4千万人分のポリオをはじめとするワクチンを日本が提供しています。

さらには、林さんの専門であります教育の分野でも、アフガニスタン国内の学校の建設・修復をすでに500校以上行っています。また、1万人以上の教員の育成や、林さんも開倫ユネスコ協会の会長として世界寺子屋運動等で識字教育をなさっていますが、30万人以上のアフガンの識字教育も日本が支援しました。

林：茂木先生が以前、外務副大臣をやられていたとき、中東で腕まくりをなさって大活躍されていたのをよく覚えています。素晴らしかったですよね。

茂木：有難うございます。確かイラクのバグダッドでしたね。

林：それから、アメリカが民主党政権になりますと、かつての貿易摩擦のように日米関係がより厳しくなるのではないかという見方もありますが、どのようにお考えでしょうか。

茂木：確かに 80 年代の日米関係では、相当な貿易摩擦やジャパンバッシングがありました。では今後、オバマ政権になってどうなるかということですが、ブッシュ政権時代と比べて3つくらい大きな変化があると思います。

その一つは環境問題。気候変動や省エネルギーの分野を重視するということですね。それから二つめは、核軍縮・不拡散。これに対してブッシュ政権はそんなに熱心ではなかったのですが、オバマ大統領は核兵器のない世界を追求する、と言っていますし、相当いろいろな問題に踏み込んでいます。三つめは、アフリカの開発。やはり自分の origin(オリジン=起源)ということもあるのでしょう。これにも重点を置きたいということです。ご案内の通り、環境問題や省エネルギーにおける日本の技術は世界一です。そして、核不拡散の分野では、日本は唯一の被爆国としてずっと国際社会に働きかけをしてきました。アフリカの開発についても、去年は第4回アフリカ開発会議(TICAD )が日本で成功をおさめ、アフリカからも日本に対しての期待が非常に高まっています。

このように、オバマ政権が向かっている方向というのは、まさに日本がこれまでやってきたことに重なってきているので、大きな方向として日米はこれから、歩調が合った非常によい形で協力できる関係になっていくのではないかと私は思います。

林：どうも有難うございました。今日は、前回、前々回に引き続きまして、衆議院議員の茂木敏充先生をお招きしてお話をお伺いしました。最後に、大不況の中ですが、どのように大不況のときを過ごしたらよいのか、先生から一言アドバイスをお願いします。

茂木：厳しい世の中であるのは確かです。しかし、悲観主義からはよい結果は生まれません。皆が協力をする中で、どこにチャンスがあるか考えながら乗り切っていく、こういう前向きな発想が必要なのではないでしょうか。

林：その通りですね。最後に、茂木先生から、前向きな発想でこの時期を乗り切ったほうがよいのではないかというアドバイスをいただきました。有難うございました。先生には更にご活躍をしていただければと思います。

茂木：来月から 22 年目、頑張ってください。

林：有難うございました。